これはいったい何でしょうか？

中にはゼンマイ仕掛けが入っていて、その向こうにはドラム状のものがあり、右側は網になっているこの箱、木製で大きさは24cm×24cm×14cm。さていったい何でしょうか？

ゼンマイでドラムを回すとなると、オルゴール？網のところはスピーカー？と想像するかもしれませんが、残念ながらそんな風流なものではありません。たしかにこのドラムはゼンマイで回転するのですが、オルゴールのようなピンはなく、その代わりに可動式の細長い金属の板がついています。また、網のところは中に何もなくて、虫かごのようになっています。

銘板に「村瀬式蠅捕器」と書いてあるこの装置。ドラムのところにお酒などハエが好むものを塗って、ゼンマイを巻くだけ。ゆっくりと回転するドラムにとまったハエは、やがて箱の中へ。ドラムに取り付けられた金属板が蓋になって、ハエは外に出られないようになります。箱の中に閉じこめられたハエが明るい方へ行くと、虫かごに入ってしまうというものなのです。

調べてみると、大正時代にはこのような蠅捕器に関する特許や実用新案がいろいろ出されています。円筒形の回転ドラムではなく四角い箱状であったり、虫かごを取り外しできるものなど…。その中に「村瀬式蠅捕器」という名称で登録されている実用新案もあるのですが、この蠅捕器のような円筒形の回転ドラムではなく、断面が十字型のものが回転するのです。なぜ違うタイプの商品に「村瀬式蠅捕器」とつけたのか、ちょっと謎ですね。

（長谷川能三：科学館学芸員）